

**【表紙】**

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	東海財務局長
【提出日】	2019年11月14日
【四半期会計期間】	第38期第2四半期（自 2019年7月1日 至 2019年9月30日）
【会社名】	株式会社Z O A
【英訳名】	ZOA CORPORATION
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長執行役員 伊井 一史
【本店の所在の場所】	静岡県沼津市大諏訪719番地
【電話番号】	055-922-1975（代表）
【事務連絡者氏名】	取締役執行役員管理本部長 安井 明宏
【最寄りの連絡場所】	静岡県沼津市大諏訪719番地
【電話番号】	055-922-1975（代表）
【事務連絡者氏名】	取締役執行役員管理本部長 安井 明宏
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

## 第一部【企業情報】

### 第1【企業の概況】

#### 1【主要な経営指標等の推移】

回次	第37期 第2四半期 累計期間	第38期 第2四半期 累計期間	第37期
会計期間	自2018年4月1日 至2018年9月30日	自2019年4月1日 至2019年9月30日	自2018年4月1日 至2019年3月31日
売上高 (千円)	3,787,018	4,127,092	8,053,833
経常利益 (千円)	76,307	86,715	190,873
四半期(当期)純利益 (千円)	50,585	56,049	119,773
持分法を適用した場合の投資利益 (千円)	-	-	-
資本金 (千円)	331,986	331,986	331,986
発行済株式総数 (株)	2,296,500	2,296,500	2,296,500
純資産額 (千円)	1,886,773	1,866,763	1,854,618
総資産額 (千円)	4,633,281	4,638,458	4,854,353
1株当たり四半期(当期)純利益 金額 (円)	28.87	38.24	73.93
潜在株式調整後1株当たり四半期 (当期)純利益金額 (円)	-	-	-
1株当たり配当額 (円)	-	-	30
自己資本比率 (%)	40.7	40.2	38.2
営業活動による キャッシュ・フロー (千円)	62,488	68,826	504,133
投資活動による キャッシュ・フロー (千円)	46,211	13,033	113,469
財務活動による キャッシュ・フロー (千円)	118,525	257,875	93,027
現金及び現金同等物の四半期末 (期末)残高 (千円)	713,949	886,657	1,062,850

回次	第37期 第2四半期 会計期間	第38期 第2四半期 会計期間
会計期間	自2018年7月1日 至2018年9月30日	自2019年7月1日 至2019年9月30日
1株当たり四半期純利益金額 (円)	12.64	23.18

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりませんので、連結会計年度にかかる主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため、記載しておりません。

4. 持分法を適用した場合の投資利益については、関連会社が存在しないため記載しておりません。

## 2【事業の内容】

当第2四半期累計期間において、当社が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

## 第2【事業の状況】

### 1【事業等のリスク】

当第2四半期累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。

また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

### 2【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中における将来に関する事項は、当四半期会計期間の末日現在において判断したものであります。

#### (1) 経営成績の状況

当第2四半期累計期間におけるわが国経済は、堅調な企業収益や雇用環境の改善を背景に緩やかな回復基調が続きました。しかし、米中貿易摩擦による中国経済の減速が国内景気にも影響が表れ始めるとともに、消費増税を控えた生活防衛意識の高まりから個人消費は減退傾向にあると予測されます。

パソコン業界においては、2020年1月に予定されているWindows 7のサポート終了に伴う買い替え需要により、パソコンの購入ニーズは高まりつつある状況が続いております。その他にもeスポーツの認知向上によるゲーミングPC需要やプログラミング学習の導入等による個人向け需要の増加、働き方改革を推進するためのパソコンの増強・入れ替えによる法人需要の増加等、様々な場面でパソコン需要が高まりつつあります。

このような状況下で当社は、パソコン事業においては、消費増税やWindows 7のサポート終了に伴う買い替えニーズが高まる中、パソコン本体の販売を最重要課題として取り組み、徹底した接客対応を強化してまいりました。絶対的な安さのアピールはもちろん、幅広い品揃えや商品知識が豊富な販売員の接客サービスを武器に、競合他店との差別化を図ることで販売実績を伸ばすことに成功しております。

加えて、当社の強みであるサポート事業の推進もこれまで同様実践しております。直近ではパソコン購入者の50%近いお客様から、初期設定やデータ移行等の購入時サポートをお受けしております。これによりお客様の満足度が向上するとともに、収益の向上も図られております。また、パソコン本体の延長保証の獲得にも注力し、お客様に満足度の高いサービス&サポートの提供を推進しております。

その他、話題性の高いゲーミングPCの販売も好調に推移し、今後益々「eスポーツ」に対する注目度が高まっていくと予想されます。専門店である強みを生かして、ビギナーからマニアまで幅広いお客様に対応できるよう、品揃えは当然のことながら、スタッフの知識向上にも取り組み、顧客の困り込みに注力してまいります。

また、消費増税前の駆け込み需要の対応として商談会の実施による見積り提案の強化、分割無金利セールの実施等により、一部商品が枯渇するほど多くのお客様に消費増税前のご購入をいただいております。

以上の結果、パソコン事業全体の売上高は前年同期比5.1%の増加となりました。

バイク事業においては、ヘルメット・ジャケット・グローブ等の基幹となるカテゴリにおいて大幅値引きセールを実施することで売上高の増加に取り組んだものの、大型台風や大雨等の天候不順が週末に集中した影響もあり全体的な売上高は減少しました。

以上の結果、バイク事業全体の売上高は前年同期比14.6%の減少となりました。

インターネット通信販売事業においては、パナソニックのレッツノート等の高単価なパソコン本体の仕入れ強化を行い、競争力のある価格設定により価格比較サイトで上位ランク表示させることで販売強化を図りました。

また、パソコン本体やタブレットの販売をメインとしつつ、非パソコンカテゴリとしてウインドエアコンや炊飯器等の家電商品、ブルーレイレコーダ等のAV商品、一眼レフデジカメ等の様々なカテゴリの商品仕入れを注力することで販売の強化を図っております。その他、Yahoo!ショッピングAreaAwards2018東海のスマホ・タブレット・パソコン部門の3位に選ばれるなど、市場からも注目される売上高の伸びを示しております。

以上の結果、インターネット通信販売事業の売上高は前年同期比27.9%の増加となりました。

その他、経費に関してはインターネット通信販売事業の売上増加に伴い荷造運賃費及び支払手数料が増加しておりますが、それに見合う売上高の増加が図られております。

以上の結果、当第2四半期累計期間の業績については、売上高4,127,092千円（前年同期比9.0%増）、経常利益86,715千円（前年同期比13.6%増）、四半期純利益56,049千円（前年同期比10.8%増）となりました。

(2) 財政状態の分析

当第2四半期会計期間末における総資産は、前事業年度末に比べて215,894千円減少し、4,638,458千円となりました。その主たる要因は、現金及び預金が176,192千円、商品が157,827千円それぞれ減少したこと等によるものであります。

負債については、前事業年度末に比べて228,040千円減少し、2,771,694千円となりました。その主たる要因は、短期借入金が200,000千円増加し、買掛金が94,171千円、長期借入金が249,576千円それぞれ減少したこと等によるものであります。

純資産については、前事業年度末に比べて12,145千円増加し、1,866,763千円となりました。この結果、当第2四半期会計期間末における自己資本比率は40.2%となりました。

(3) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期会計期間末における現金及び現金同等物は、886,657千円となりました。当第2四半期累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの増減要因は、以下のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動によるキャッシュ・フローは、68,826千円の収入超過となりました。その主たる要因は、税引前四半期純利益86,715千円を計上し、たな卸資産が157,718千円、仕入債務が94,171千円それぞれ減少したこと等によるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動によるキャッシュ・フローは、13,033千円の収入超過となりました。その主たる要因は、差入保証金の回収による収入11,216千円等によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動によるキャッシュ・フローは、257,875千円の支出超過となりました。その主たる要因は、短期借入金による収入200,000千円、長期借入の返済による支出305,416千円、自己株式の取得による支出100,044千円等によるものであります。

(4) 経営方針・経営戦略等

当第2四半期累計期間において、当社が定めている経営方針・経営戦略等について重要な変更はありません。

(5) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期累計期間において、当社が対処すべき課題について重要な変更はありません。

(6) 研究開発活動

該当事項はありません。

### 3 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

### 第3【提出会社の状況】

#### 1【株式等の状況】

##### (1)【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	8,100,000
計	8,100,000

###### 【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末現在発行数(株) (2019年9月30日)	提出日現在発行数(株) (2019年11月14日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	2,296,500	2,296,500	東京証券取引所 JASDAQ (スタンダード)	単元株式数 100株
計	2,296,500	2,296,500	-	-

##### (2)【新株予約権等の状況】

###### 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

###### 【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

( 3 ) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】  
該当事項はありません。

( 4 ) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数 (株)	発行済株式総 数残高(株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金増 減額(千円)	資本準備金 残高(千円)
2019年7月1日～ 2019年9月30日		2,296,500		331,986		323,753

( 5 ) 【大株主の状況】

2019年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式 数(株)	発行済株式(自 己株式を除 く。)の総数に 対する所有株式 数の割合(%)
長嶋 しのぶ	静岡県沼津市	414,700	28.52
ダイワボウ情報システム株式会社	大阪市北区中之島三丁目2 - 4	290,000	19.94
伊井 一史	静岡県三島市	209,700	14.42
安井 明宏	静岡県沼津市	66,100	4.54
長嶋 慶	東京都中央区	50,000	3.43
西股 縁	東京都港区	50,000	3.43
Z O A 社員持株会	静岡県沼津市大諏訪719	38,200	2.62
岩見 好為	奈良県大和郡山市	19,600	1.34
青山 泰長	愛知県西尾市	18,200	1.25
竹内 清陽	愛知県蒲郡市	9,200	0.63
計	-	1,165,700	80.17

(6)【議決権の状況】  
【発行済株式】

2019年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 842,500	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 1,453,800	14,538	権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式
単元未満株式	普通株式 200	-	-
発行済株式総数	2,296,500	-	-
総株主の議決権	-	14,538	-

【自己株式等】

2019年9月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
株式会社ZOA	静岡県沼津市大諏訪719番地	842,500	-	842,500	36.69
計		842,500	-	842,500	36.69

2【役員の状況】

該当事項はありません。



## 第4【経理の状況】

### 1．四半期財務諸表の作成方法について

当社の四半期財務諸表は、「四半期財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第63号）に基づいて作成しております。

### 2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期会計期間(2019年7月1日から2019年9月30日まで)及び第2四半期累計期間(2019年4月1日から2019年9月30日まで)に係る四半期財務諸表について、EY新日本有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

### 3．四半期連結財務諸表について

当社は子会社がありませんので、四半期連結財務諸表を作成しておりません。

## 1【四半期財務諸表】

## (1)【四半期貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (2019年3月31日)	当第2四半期会計期間 (2019年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	1,062,850	886,657
売掛金	327,632	373,349
商品	1,949,441	1,791,614
その他	51,539	57,531
貸倒引当金	1,514	1,388
流動資産合計	3,389,950	3,107,764
固定資産		
有形固定資産		
土地	718,343	718,343
その他(純額)	234,373	224,367
有形固定資産合計	952,717	942,710
無形固定資産	13,455	12,509
投資その他の資産	498,229	575,473
固定資産合計	1,464,402	1,530,693
資産合計	4,854,353	4,638,458
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	838,398	744,226
短期借入金	-	200,000
1年内返済予定の長期借入金	563,292	507,452
1年内償還予定の社債	20,000	10,000
未払法人税等	24,433	37,754
賞与引当金	36,904	32,411
ポイント引当金	16,570	15,652
その他	143,328	120,512
流動負債合計	1,642,927	1,668,007
固定負債		
長期借入金	1,265,210	1,015,634
長期未払金	4,133	4,133
退職給付引当金	87,464	83,919
固定負債合計	1,356,807	1,103,686
負債合計	2,999,734	2,771,694
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	331,986	331,986
資本剰余金	343,557	345,049
利益剰余金	1,845,561	1,857,930
自己株式	666,485	668,202
株主資本合計	1,854,618	1,866,763
純資産合計	1,854,618	1,866,763
負債純資産合計	4,854,353	4,638,458

( 2 ) 【四半期損益計算書】  
【第2四半期累計期間】

( 単位：千円 )

	前第2四半期累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)
売上高	3,787,018	4,127,092
売上原価	2,934,765	3,216,866
売上総利益	852,253	910,225
販売費及び一般管理費	779,486	825,030
営業利益	72,767	85,195
営業外収益		
受取手数料	3,899	3,716
その他	2,609	673
営業外収益合計	6,508	4,389
営業外費用		
支払利息	2,485	2,344
その他	482	524
営業外費用合計	2,968	2,869
経常利益	76,307	86,715
税引前四半期純利益	76,307	86,715
法人税等	25,722	30,666
四半期純利益	50,585	56,049

## (3)【四半期キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第2四半期累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税引前四半期純利益	76,307	86,715
減価償却費	15,252	15,868
貸倒引当金の増減額(は減少)	88	126
賞与引当金の増減額(は減少)	1,618	4,493
ポイント引当金の増減額(は減少)	2,851	918
退職給付引当金の増減額(は減少)	564	3,545
受取利息及び受取配当金	608	608
支払利息	2,485	2,344
売上債権の増減額(は増加)	37,118	43,092
たな卸資産の増減額(は増加)	93,481	157,718
仕入債務の増減額(は減少)	60,840	94,171
その他	16,874	26,220
小計	116,498	89,472
利息及び配当金の受取額	608	608
利息の支払額	2,636	2,186
法人税等の支払額	51,982	19,068
営業活動によるキャッシュ・フロー	62,488	68,826
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	29,424	4,915
差入保証金の差入による支出	17,209	3,337
差入保証金の回収による収入	12,263	11,216
長期貸付けによる支出	20,000	-
長期貸付金の回収による収入	8,915	3,416
その他	756	6,654
投資活動によるキャッシュ・フロー	46,211	13,033
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額(は減少)	150,000	200,000
長期借入金の返済による支出	141,832	305,416
長期借入れによる収入	500,000	-
社債の償還による支出	30,000	10,000
自己株式の取得による支出	305,280	100,044
配当金の支払額	54,362	42,415
財務活動によるキャッシュ・フロー	118,525	257,875
現金及び現金同等物に係る換算差額	214	177
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	135,017	176,192
現金及び現金同等物の期首残高	578,932	1,062,850
現金及び現金同等物の四半期末残高	713,949	886,657

【注記事項】

(四半期財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

(税金費用の計算)

税金費用については、当第2四半期会計期間を含む事業年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(四半期損益計算書関係)

販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前第2四半期累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)
給与及び手当	220,669千円	209,037千円
賃借料	148,253	154,363
賞与引当金繰入額	32,343	32,411
退職給付費用	2,750	5,296

(四半期キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は下記のとおりであります。

	前第2四半期累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)
現金及び預金勘定	713,949千円	886,657千円
預入期間が3ヶ月を超える定期預金	-	-
現金及び現金同等物	713,949	886,657

(株主資本等関係)

前第2四半期累計期間(自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)

1. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配 当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2018年6月22日 定時株主総会	普通株式	54,390	30	2018年3月31日	2018年6月25日	利益剰余金

(2) 基準日が当第2四半期累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期会計期間末後となるもの

該当事項はありません。

2. 株主資本の金額の著しい変動

該当事項はありません。

当第2四半期累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)

1. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配 当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2019年6月21日 定時株主総会	普通株式	43,680	30	2019年3月31日	2019年6月24日	利益剰余金

(2) 基準日が当第2四半期累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期会計期間末後となるもの

該当事項はありません。

2. 株主資本の金額の著しい変動  
該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期累計期間(自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)

当社の事業セグメントは、パソコンを中心とした小売業及びその他の事業であります。その他の事業の割合が僅少であり、開示情報としての重要性が乏しいため、セグメント情報の記載を省略しております。

当第2四半期累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)

当社の事業セグメントは、パソコンを中心とした小売業及びその他の事業であります。その他の事業の割合が僅少であり、開示情報としての重要性が乏しいため、セグメント情報の記載を省略しております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第2四半期累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)
1株当たり四半期純利益金額	28円87銭	38円24銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額(千円)	50,585	56,049
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る四半期純利益金額(千円)	50,585	56,049
普通株式の期中平均株式数(株)	1,752,148	1,465,727

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

該当事項はありません。

## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

2019年11月14日

株式会社Z O A

取締役会 御中

EY新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 平井 啓仁 印

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 谷間 薫 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社Z O Aの2019年4月1日から2020年3月31日までの第38期事業年度の第2四半期会計期間（2019年7月1日から2019年9月30日まで）及び第2四半期累計期間（2019年4月1日から2019年9月30日まで）に係る四半期財務諸表、すなわち、四半期貸借対照表、四半期損益計算書、四半期キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

### 四半期財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して四半期財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

### 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社Z O Aの2019年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2. X B R L データは四半期レビューの対象には含まれていません。